

# JUNGIDO

## 滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

発行人／浅田幸作  
 発行所／滋賀県立膳所高等学校同窓会  
 大津市膳所 2-11-1  
 TEL077-524-4295・FAX077-524-1732  
 発行日／平成 22 年 4 月 15 日  
 編集人／広報部会・山田 勲  
 印刷／株式会社 サンエムカラー

URL:http://www.dosokai.ne.jp/zezekoukou  
 E-mail:zeze-h-dousokai@poem.ocn.ne.jp

VOL.27

『遵義の桜、さらなる開花』

1898==2010

### CONTENS

巻頭エッセー	1
平成22年度総会のお知らせ	1
秋山仁氏による「教育の日講演会」	2
グアム島修学旅行	2
校歌の変遷	3
石鹿文庫	3
同窓会役員	3
同窓会事業のご案内	3
周年記念同窓会報告	4・5・6・7
野球部OB会入会式	7
周年記念同窓会予告	7
会費納入のお願い	7
膳所高NEWS	8
会計報告・総会提出議案	別紙

### 巻頭エッセー

## 「鳥取方式」による校庭芝生化で地域活性化

膳所高十二回卒業 中野 淳一



産業革命以後の社会通念では『世界の経済価値は、自然界からモノをとりだすことで生まれる』であったが、近年では、資源の有限性と地球環境の観点から、『経済価値は、健全な河川や森林、牧草の栽培研究と教育に携わってきました。農業は本来、生命体である食糧を生産することが主目的であり、農業の基本思想は生命・環境・労働・地域社会および永続性であるといっても過言ではなく、水や山野を健全に保つことは農業が伝統的に守ってきた最も基本的なことと言えます。また、このような考えは農業だけに限らず、江戸時代に当時の世界最高水準の複式簿記を考案し、「買い手よし、売り手よし、世間よし」の「三方よし」を実践した近江商人の家訓の精神にも相通するものがあると思います。

現在、私は鳥取市に在住していますが、鳥取県は二十世紀梨、ラッキョウ、白ネギの他に芝生の生産県でもあります。永年の牧草研究と芝生を結びつけて社会貢献の一つとして提案したものが「鳥取方式」による校庭芝生化です。日本の高温多湿の気候に適し、シバ草の中で最も生長速度が速く、踏圧被害からの回復力が大きいバミューダグラス（ティフトン）のポット苗を50cm間隔で移植し、約三ヶ月で校庭全面を芝生化する方法です。「鳥取方式」の校庭芝生化の重要なコンセプトは、ゴルフ場

### 新入会員

## 「感動」を作り出す

平成22年3月卒業 服部 光記



「春は邂逅と離別の季節」とよく表現されるが、なるほどその言葉は正しいのだろう。現に私達は、3年前に膳所高校の遵義の桜を迎えられ、友人達と出会い、日々を共に過ごし、苦楽を共にした。そして今、私達は遵義の桜を背に、新たな道を進んで行く。私にとって3年間という期間は思いの他短いものであった、しかし非常に充実した3年間であった。日々の学習や班活動、またスポーツ大会や湖風祭といった学校行事を通じて得たモノは、結果はどうであれかけがえのないものとして私の胸に刻まれ、それらは私を昔よりも一回りも二回りも大きくしてくれたように感じられる。

の芝生のような高い品質を追求せず、除草や病害虫防除を省略し、野草とシバ草が共存しながら、年中何らかの植物で地表が覆われている「くさはら」を目指していることです。第二のコンセプトは、校庭の芝生化に保護者や校区住民が参加することです。その結果、子供の体力が増し、地域も活性化した例がたくさん出てきています。従来までの高級で高価な芝生とは異なり、誰もが何時でも利用できる身近な芝生の作り方として、二〇〇三年に提案した「鳥取方式」は、低コストであるだけでなく誰にでもできる簡単な方法であるため瞬く間に全国に拡がり、二〇〇九年までの7年間に41都府県614箇所まで合計100万㎡に達し、校庭芝生化の第二ブームが巻き起こっています。これを一過性のブームに終わらせず、大多数の学校に芝生が導入されるまで芝生化ムーブメントとして継続され、さらに将来の地域の問題解決能力向上に結実することを願っているところです。今年四月からは故郷である大津市内にUターンし、芝生化活動や農業問題などに取り組みたいと考えています。一昨年から、母校膳所高校の校庭の一部がラグビー部員の手作りで芝生化されています。ラグビーはもとより、野球もサッカーも芝生の上で練習することが本来の姿でありますので、母校の校庭芝生化に同窓会諸氏の強力なご支援をお願い致します。

略歴  
 1967年農林技官、その後、鳥根大学農学部、京都大学農学部助教授を経て、鳥取大学農学部准教授、稲作、飼料作物の研究、教育に従事。NPOグリーンスポーツ鳥取理事。

中でもやはり湖風祭や班の大会は色あせることなく鮮やかに彩られている。というのも大舞台に臨むまでに自分が、自分達が色々なものを積み重ねてきたからである。今年の2月に開催された五輪の選手やテレビに映る有名人が私達に与えてくれる感動は「彼らの感動」なのだ。その感動は決して私達のものではない。たとえどれほど偉大なことであっても、私にとって「彼らの感動」が私を成長させてくれた「私の感動」を上回ることはないだろう。思うに、あまりに身近であり、地味で、とても気づきにくいことなのだが、最も大切なものは感動の終着点や大きさではなく、むしろ一日一日過ぎていく普通の日々を基に自らが築いた「自分の感動」なのだろう。

私達は卒業後、それぞれが自分の進む道を切り拓いていき、様々なものごとを経験して成長していく。苦あれば楽あり、楽あれば苦あり。道中、日々を懸命に生き、己を磨き「自分の感動」を経験できる人でありたい。

## 本年の総会は5月16日(日)

### 平成22年度 総会のお知らせ

滋賀県立膳所高等学校同窓会 平成22年度定例総会を左記の要項により開催いたします。  
 平成21年度は、体育館放送設備の更新、第二グラウンドの整備に協力いたしました。  
 本年度の総会に同窓会員の皆様方多数のご出席をお願い申し上げます。

### 平成二十二年 定例総会

- 日時 平成22年5月16日(日) 午前10時開会(午前9時30分 受付開始)
  - 場所 大津プリンスホテル プリンセスホール 大津市におの浜4丁目7-7 電話 077(521)1111
  - 議事
    - 一、平成21年度会務報告・部会報告
    - 一、平成21年度会計報告・会計監査報告
    - 一、平成22年度事業計画案
    - 一、平成22年度予算案
    - 一、その他
  - 講演 「これまでの行政、これからの行政」 講師 岩崎 貞二氏 (膳所高16回 昭和43年卒) \*鉄道建設・運輸施設整備支援機構 理事長代理
  - 懇親会 懇親会にご出席の方は、当日受付にて会費6千円を頂戴いたします。
- 出席のお返事は同封のハガキでお願いします。欠席の方及び異動のない方はご返信不要です。

### 講師のプロフィール



昭和43年膳所高等学校卒業／昭和49年東京大学卒業・運輸省入省 平成21年海上保安庁長官を最後に国土交通省退職 現在鉄道建設・運輸施設整備支援機構 理事長代理

### 講演の主旨

中央官僚として35年過ごしてきました。自分がかかわった運輸行政、特に航空・バス・タクシー、海上保安を題材に、行政が何を考え、何に悩んできたのか、行政と政治の関係がどうだったのか、国の行政と地方行政、行政と民間のかわりなどを話すとともに、政権がかわり、行政のあり方が見直される今、これからの行政に期待することを話します。

# 秋山仁氏による「教育の日講演会」

教頭 辻 雅代



昨年11月17日、数学者の秋山仁先生を本校にお招きし、「教育の日講演会」を開催しました。11月1日の「滋賀教育の日」にちなんで名付けたこの講演会は、様々な分野で活躍されている講師の講演を生徒たちに聴かせることで、学習意欲を高め、自己実現に向けて一層の奮起を促すために毎年この時期に実施しています。

講師の秋山先生は、ヨーロッパ科学院会員で、東海大学教育研究所長をお務めになりながら日本文藝家協会会員として、またアコーディオン奏者として活躍中、という多彩な才能をお持ちの方です。「ゴールを決めるのは魂の構えだ」と題して、アメリカの詩人ウイルコックスの詩の一節「或る船は東へ進み、また他の船は同じ風で西に進む」を引用し、ゴールにたどり着くかどうかは一人ひとりの心の構えかたによって決まる、若者は高い志を持って努力することが大切、と自らの体験をもとに熱く語ってくださいました。高校時代は数学が苦手でありながら、どうしても数学がやりたいという強い思いで一筋に努力を重ねられ、夢を叶えた先生の存在は、生徒たちにとって大きな励ましとなり、勇気を与えていただきました。後半は、道

具を駆使した数学のおもしろい実験の数々をとおして、数学の楽しさ、数学の有用性を目に見える形で示してくださいました。最後のメッセージ「若者への10ヶ条」まで一瞬も目が離せない展開で講演会が進み、生徒は大いに触発されるとともに、これからの人生を深く見つめ直すきっかけを得ることができました。

もう一つ会場を沸かせたのは、秋山先生のアコーディオン仲間である、女優の由美かおるさんの登場でした。途中から登壇され、実験の助手を務めたうえに、秋山先生のアコーディオン伴奏でデュエットまで披露してくださいました。有意義な講演会となったことをご報告させていただきます。



# グアム島修学旅行

2年10組担任 田中 良

本校初の海外修学旅行となる、グアム島修学旅行に行っていました。大方の同窓諸氏には「なぜグアム島で？」というような疑問が生じておられるのではないのでしょうか。そこで、今回の修学旅行の内容をお示ししていくことといたしました。

現在、学年全体が乗れる飛行機は、グアム島へ飛んでいないので、日を分けて前後2団で出発しました。初日は中部国際空港からグアム島への移動です。到着後は恋人岬を見学、ちょうどサンセットを迎え、その美しい景色に感激ひとしおでした。

前団の2日目・後団の3日目の午前はグアム大学での講義です。特別に設定していただいた授業を受け、昼食後のセレモニーでは全員に修了証書が渡されました。授業では質疑応答も英語で行い、現地学生との交流も持つことができるなど、英語を実際にコミュニケーションの手段として用いられました。

この日の午後はクラス独自で企画した行動です。自然や文化を中心に様々な課題をつくらせて見学しました。



前団の3日目、後団の2日目は朝からココス島へ。この島を借り切って、マリンスポーツや自然観察など様々な体験を楽しみました。その一方、サンゴ礁の環境でできたこの島では、島の下水処理施設の見学を行うなど環境問題や自然保護に対する生徒の関心を高められました。この日の夜には恒例となっている「膳所高祭」。各クラスで様々な出し物を考え、また楽しい有志発表など、時間がすぐに過ぎていきました。生徒達もこの日が一番楽しかったようです。

最終日は午前中班活動での自由行動です。おみやげを買ったり、大きなハンバーガーをほおぼつての昼食をとりホテルに集合し、日本へ帰国となりました。

英語での生活や日本とは異なる自然環境を体験した他にも、海岸のビーチ跡などの戦跡を見学することで、あらためて国際平和について学ぶ機会を与えることができました。このように、グアムならではの体験を通じてクラスや生徒と教員間の人間関係を深めることができましたことをここに伝えたいと思います。



# 校歌の変遷について

本校は明治31年に創立され、本年113年を迎えようとする歴史を有しています。

この間、校名・校章の変更や学校のシンボルともいえる校歌は時代の流れとともに五度の変遷を経ました。(昭和4年、昭和11年、昭和23年、昭和27年、昭和30年)

校歌にはその時代背景やその当時の人々の考えが色濃く反映されています。在校時の校歌を歌うことにより、その頃を懐かしく思い出し、また青春の時代に戻ることが出来ます。毎年の同窓会総会の開会時には現在の校歌が斉唱されていますが、懇親会では先輩諸兄が旧制膳所中学の校歌を声高らかに歌われているのを拝見するとそのことがよく分かります。校歌はそんな力を持っていると思います。

本紙では今回から数回に渡り五度の校歌の変遷を見ていくこととします。

第一回目は、昭和4年の膳所中学の校歌です。この時まで校歌というものが無く、第27回の生徒が卒業に当たり卒業記念として、学校に対し費用や交渉などは自分たちで行うからと寄贈を申し出て、学校が了承したことから最初の校歌ができたということです。作曲は園頼三氏が永井幸次氏に直接依頼されたそうです。

## 滋賀県立膳所中学校校歌

作詞 園 頼三 (同志社大学教授、膳所中六回卒)  
作曲 永井 幸次 (大阪音楽学校校長)

一 春 駘 蕩 の 琵琶 の 湖  
霞 渡 る を う ら ら け き  
陽 は 爽 や か に 輝 き ぬ  
その 光 う け 展 け 行 く  
我が 人 生 の 朝 ぼ ら け  
げ に 明 る く も 朗 ら か に  
見 よ や 希 望 の 白 帆 影  
平 和 の か も め 空 に 舞 ぶ

二 比 良 や 比 叡 の 峰 の 色  
秀 麗 の 景 つ くり な す  
琵琶 湖 は 吾 等 の 友 な れ や  
鉄 腕 撫 し て 漕 ぎ 廻 り

道 遙 の 杖 此 処 に ひ く  
實 に 透 徹 と 清 澄 の  
深 く た た ぬ る そ の 姿  
知 者 仁 人 の 心 ぞ や

三 拳 世 浮 薄 に 流 る る も  
郷 土 質 実 の 風 を う け  
立 つ 学 園 の 雄 々 し さ よ  
心 堅 実 か く て こ そ  
天 然 の 美 も 匂 ふ べ し  
あ あ 青 春 の 五 星 霜  
こ の 学 窓 の 托 せ し は  
ま こ と 吾 等 の 誇 り ぞ や

当初、一番の歌詞の終わり部分が「自由のかもめ空に舞ふ」であったのが、当時の校長から指摘され「平和」となったというエピソードがあります。27回の生徒はこの校歌を歌い卒業されたそうです。

先号の「JUNGLIDO」で校歌にまつわる記事を募集しましたところ、野洲市在住の長谷川良治さんから校歌に関する記事を送って頂きましたので紹介します。

(前略)

昭和4年の校歌は生存者が少なく、私も永井幸次先生のお話を少し聞いたことはありますが、あまり詳しくは存じません。

昭和11年の校歌「草生す城」は私が入学したときに制定されました。当時校報「遵義」に掲載されていると思います。山田有功先生(注:作詞者)の実力(国語・漢文)は極めて優秀で私の先輩が授業の時、山田先生にチョンマゲのチョンはどういう字を書くのか尋ねたそうです。すると漢文の時間一時間かかって生徒全体に説明されたと聞いています。つまり大修館発行の諸橋轍次著『大漢和辞典』12冊全部が頭脳に入っていたようです。寺村周太郎先生(注:作曲者)は私の一年生の時の学級担任です。音楽の力は当時、東京帝国大学で野村先生がベートーベンの第九を十年間ほど解説されていたが、これと匹敵する高度な説明を膳所一年の音楽授業にされていた。また先生は魔法陣の大家で、世界七人のうちの一人(日本では寺村先生のみ)で常に外国の方々と連絡しながら研究されていました。現在はコンピュータですぐに組み合わせ数字ができますが、当時は紙に鉛筆で考えていくため、

大変な努力が必要となりました。私も先生の下宿(膳所の前)やお家(鳥居本)へお伺いしたこともありました。

昭和23年の校歌は、山本温子様(注:作詞者)には電話でお尋ねいたしました。作詞の実力があつたようので何気なく書いたのが採用されたと言っておられました。お出会いはしなかったのですが、日時がうまくとれなくて終わりました。残念なことをしたと思つています。片岡晴太郎先生(注:作曲者)は私の住所(野洲市吉地)の出身です。北朝鮮、特に平壤では極めて有名で北朝鮮の音楽文化を築かれた方です。東京で外国人の演奏があるとその外国人を平壤に呼び、東京同様の演奏会を開かれました。現在のピョンヤンの音楽文化は先生のお力によるものが大です。敗戦後引き揚げられるとき北朝鮮の人々は先生のご家族を38度線まで護衛をつけて送ってもらったと云っておられました。年2回、盆、正月には吉地にあるお墓に参りに帰られ、私宅で夕食を共にしたりしてお話を伺いました。前後になりますが、朝鮮からの引き揚げの時は日本人は敵国扱いのため殺されたり、追放、迫害を受けた方々がほとんどです。(後略)

次号につづく

## 膳所高卒業生「石鹿文庫」寄贈図書

著者名	書名・巻次(版次)
川合 禎次 著	●昆虫少年の博物誌 水棲昆虫とともに
川合 禎次・谷田 一三共編	●日本産水生昆虫 科・属・種への検索
米津 彬介 著	●楽浪(さざなみ)の沖に 明智家と堅田湖賊
田中 修 著	●ふしぎの植物学 身近な緑の知恵と仕事
ギャラリーはねさき	●LOVE&ART
原田 稔 著	●滋賀県立膳所高等学校 百十周年記念誌 平成10年度〜20年度
草野 善朗 著	●「熱情」の使徒は二度甦る 私本 久野久子伝1
川嶋 四郎 著	●おもしろマテハン読本 「知られざる男たちの実力」
村田 安雄 著	●アメリカ、ロースタール教育論考
	●苦悩する市場原理のアメリカ医療

卒業生文庫「石鹿文庫」へご寄贈を。  
「石鹿文庫」は同窓生の著書を集めた文庫です。

## 同窓会役員(平成21年〜22年度)

役職	氏名	所属
会長	浅田 幸作	昭和33年(膳6)
副会長	上野 滋子	昭和29年(東2)
監事	阪田 順	昭和30年(東3)
監事	鈴木 勝博	昭和35年(膳8)
監事	大西 元則	昭和37年(膳10)
常任理事	西村 育子	昭和24年(中47)
常任理事	今市 信夫	昭和28年(膳6)
常任理事	小西 英太郎	昭和28年(東1)
部長	高城 宗求	昭和32年(膳5)
部長	大村 俊文子	昭和31年(東4)
部長	松村 文夫	昭和28年(東1)
部長	山田 勲	昭和36年(膳9)
部長	遠藤 仁兵衛	昭和38年(膳11)
部長	横田 陽子	昭和46年(膳19)
部長	東郷 重明	昭和34年(膳7)
部長	池田 修	昭和25年(大1)
幹事	井上 正雄	昭和42年(膳15)
幹事	直村 かほる	昭和46年(膳19)
幹事	宇野 勝	昭和43年(膳16)
名誉会長		昭和12年(中35)

## 同窓会事業のご案内

### ◆第6回(平成22年度)クッキングセミナー

- ・とき 平成22年6月10日(木)
- ・ところ 大津プリンスホテル
- ・参加費 四、〇〇〇円
- ・内容 日本料理
  - ・実は知らない和食のコツ
  - ・おうちでサクッと天婦羅料理
- ・定員 申込み順 先着20名様
- ・参加申し込みいただいた方には詳細を追って連絡いたします。
- ・お申し込みは、同窓会事務局まで  
TEL077・524・4295  
又は FAX077・524・1732

### ◆第15回(平成22年度)ゴルフコンペ

- ・とき 平成22年9月20日(月・祝)
- ・ところ メイプルヒルズゴルフクラブ  
甲賀市信楽町田代65  
TEL074818213800
- ・スタート時間 8時00分アウト・イン同時スタート
- ・申込メッセ各各あて集合時間及び組み合わせ表を追って通知します。
- ・競技方法 ダブルペリア方式による18ホールストロークプレー
- ・当日会費 一八、〇〇〇円(予定)
- ・但しメンバー・シニアは別料金
- ・募集人数 30組 120名
- ・定員に達し次第第×切とします。

# 周年記念同窓会

## 三九会総会開催

(膳所中39回 昭和16年卒業)

母校の校門横の庭に膳中卒39会が寄贈植樹した金木犀が香る頃となりました。

このよい時期に39会総会を10月15日、長浜で開催しました。

ガラス館、大通寺をはじめ名勝観光のあと、美しい湖を眺めながら北ビワコホテルで十人が集い、船橋市からも参加してくれました。



60年以上若返り、なつかしい思い出話になごやかなひとときをすごすことができました。

米寿を迎えた友もあり、益々元気で長寿を感謝しながら次期再会を誓い、校歌を斉唱しお開きとなりました。

(長谷川良治)

## 傘寿記念同窓会

(膳所中46回・昭和23年卒業)

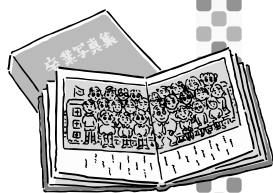
(旧膳所高・昭和24年卒業)

平成21年11月14日(土) ライズヴィル都賀山(守山市)で傘寿記念同窓会を開催しました。

私達は60周年記念同窓会を昨年11月20日(木)にホテルポストンプラザ草津(草津市)で実施したばかりでしたので、果たして何人集まってくれるか心配でしたが、この同窓会で来年は守山地区・野洲地区で傘寿同窓会をやるとうい約束した関係もあって、49名(内女性4名)の方に出席して頂き、盛会裡に傘寿会を開催することが出来たことを非常に嬉しく思っております。

冒頭、川那辺泰君の追悼で鬼籍に入られた同窓生106名のご冥福を祈った後、懇親会に移り、約2時間半話しに花が咲きやかな中に旧交を深め懇談しました。

今回は傘寿記念という事でアトラクションとして、



よし笛アンサンブルの皆さんにより、懐かしい曲をよし笛で演奏して貰いました。よし笛をテレビで聴いたことはあるが生で聴くのは初めてだという方もおられ、大変好評でした。

男性の中には、今回参加の女性の方が同窓生だと知っている方が少なかったので披露も兼ねて紹介させて頂きました。戦後の学制改革で男女共学制が敷かれ、市立女学校が膳所中学に併合されて旧膳所高校となったため、同窓生となられた旨説明がありました。



川島君から「天下の進学校である膳所中に入学するのに、先生や上級生から暴力(ビンタ)を受け意外だった。陸軍幼年学校に在学していた一年半、一度も暴力を受けなかった」と幼年学校時代の思い出を話されました。私は海軍甲種予科練習生として一年間訓練を受けましたがその間日々バスターという暴力を受けていましたので、さすが幼年学校は違うなあと痛感した次第です。又、大角君(比叡山の高僧)からは、「旧友が亡くなった事を知ったら、親しかった友達をせめて故人に線香の一本でもあげて欲しい。そのことによって遺族の方はどれだけ喜ばれるかも知れない」と心暖まるお話をされ、共感を覚えました。

## 60周年記念真珠会

(旧大津高 昭和24年卒業)

緑爽やかな6月3日に、私達は大津プリンスホテルで第20回真珠会を開催致しました。会名の月に因んで毎年6月頃に開催しており、これまで欠けることなく今まで20回目を迎えました。私達は新制高校が始まっ

て第一回の卒業ですので、今回は卒業60周年の記念級会になりました。

これは松山先生と出席した多くの会員のお陰です。特に先生は昨年まで皆出席下さいまして、私達はいつも先生の温かいお言葉を仰ぐ事ができました。

思い返しますと卒業40周年から始めましたので比較的遅くからスタートした級会でございましたが、今回20年目を迎えて感慨一入の思いの会合になり皆で喜びを分かち合いました。

級会20年という区切りを迎えたこともあり、これからは年も重ねますし、級会幹事の役割など考え合わせましてこれからの級会の在り方について色々相談しました。会終了後「シャトレーヌ」へ移り相談を続けました。

(佐田葉子)



## 二六会同窓会

(大津高2回 昭和26年卒業)

平成21年10月21日(水) 正午、ロイヤルオークホテルオークキッドホールで同窓会を開催しました。

昭和26年卒業時767名(男403・女364) 物故者173名(男122・女51)

出席者152名(男84・女68)

二年に一度の今回、当番の膳所、石山、瀬田地区幹事会が対応しました。心配された新型インフルエンザの影響もなく、遠くはアメリカを始め九州からも参加して下さいました。

私たちの高校生活は昭和23年という終戦直後の混乱期の学制改革で初めて男女共学になり、校舎も別れたり、統合したりと戸惑うばかりでしたが青春の思い出は多くあります。だって、膳所中学入学から高校卒業まで六年間一緒に学べた者もおります。

一般に同窓会への参加は年代と共にその目的も変わりますが私達の年代になりますと老化度のチェックに最適な機会です。気になる身体の不調も年齢相応と分かれば、見て聞いて、確かめて安心です。

二次会として、希望者50数名が2階のパティールーム2箇所に別れ、大いに歌い、歓談して17時半お開きとしました。

平成23年は草津地区幹事様が当番で「八十路の想い」を込めて草津でおこないます。

(澤野憲太郎)

## 55周年記念同窓会

(大津東高2回 昭和29年卒業)

母校を出て早55年が過ぎたかと思うと感慨無量である。還暦より一廻りという趣旨で、3年前に集まったのであったが、その時の出欠にも拘わらず、お互いに年老いたのか長い間会っていないように懐かしく思われた。

残暑の酷しい9月25日(土)に琵琶湖ホテルに集まったのは101名であった。今回は先生のご参加は残念ながらなかったのであるが、先生のご消息についての話はあちこちで語られていた。

3年前の前より物故者が10名もふえて、悲しい事に、卒業以後110名の物故者となった。

次にな田潔さんの編集によるビデオを15分間見せて頂く。私達の高校生時代の前後の社会情勢からはじまり、学びし頃の様子から現在の整備された学校の風景などを見せてもらい、懐かしい時間であった。

遠くから参加してくれた種村直樹さんの乾杯により宴がはじまり、どのテーブルも急に賑やかになった。食事を摂りながら、弾む話は戦中の小学校時代、戦後の物資不足時代、ポロポロの校舎で学んだこと、各々の部活で楽しんだこと等の高校生時代の話から日本の高度成長時代に社会人としてそれぞれの立場で活動したこと、世界の情勢が変化し仕事の線より退き、今では、健康のことや孫たちの成長を見つめる歳になつてきていることの話が、どのテーブルでも話題がつかないようで、遠慮なく思いのままに話し合えるのが仲間達との同窓会であるとしみじみ感じ、次は喜寿となる3年後に合うことを約束する。

最後に腕を組み「琵琶湖周航の歌」を歌い、お互いの顔を見合わせた。私からは、同窓会総会に参加してほしいことや毎年の同窓会費を支払ってくださることをお願いし、閉会としました。

希望者のみ場所を変えての二次会に参加してもらい、カラオケを歌い、賑やかに飲み歌う。

55周年同窓会の余韻を楽しみ次回は元気で再会できることを誓い合った。

(上野滋子)



## 50周年記念同窓会 (膳所高7回 昭和34年卒業)

昭和34年(膳所高7期)卒業生は2009年11月29日に卒業50周年を記念して琵琶湖ホテルに集まり、卒業生130名に、同窓会会長の浅田幸作先生、現学校長の河原恵彰先生、恩師の久保良彰先生、岩井富喜子先生、北条勇先生にご臨席頂き盛大な同窓会を持つことが出来ました。



実は、我々昭和34年卒は毎年同窓会を開催しており、集まりやすいという特徴があります。今回は50周年記念の会になるので、単に集い懐かしむだけでなく、これからの人生を互いに大いに楽しく過ごすことに重点を置くことにし、テーマとして「これからを愉快地楽しく... Cheerful Happy Life with a Smile for Ever!!」を掲げることにしました。会全体の流れは、記念写真撮影にはじまり、物故者への友寄せの花・黙祷、第一部・スライドとパネル展示、第二部・宴会と盛り沢山で、5時間に亘る長い会となった。会の企画・進行は当時の放送班のメンバーが担当してくれ、後にZETAのアナウンサーになった山田誠浩君の名司会で進み、長い会でも飽きることがなかった。

第一部スライドとパネル展示では、懐かしい恩師の先生と校舎、運動会、バスツアー、修学旅行などの思い出を振り返ると共に、いま、仲間を取り組んでいるいろいろな楽しいイベントを紹介し合うことにより、これからの楽しみ方を見出すことができたようです。いくつかの写真を紹介します。

同窓会長の浅田幸作先生からは、後で便りを頂き「スライドによる同窓生の諸分野での活躍の様子を拝見し、大層うらやましく思いますとともに、感動を得ました」という感想をお寄せ頂きました。また、現学校長の河原恵彰先生からも「皆様の当時の活躍の様子・気概は現在の高校生にも引き継がれていますよ」と言っていたとき、膳所高校の伝統、熱い流れが続いていることに感じ入っています。また、恩師の久保先生、岩井先生、北条先生ともにお元気で、話が進む内に昔の通りの先生の私達に対する熱い思いを蘇らせていま

した。友寄せの花は木村尚達君の発案で、各自の献花をその場でアレンジして物故者への我々の思いが伝わる見事な盛り花芸術にしてくれました。司会者の山田君といい、木村君といい、楽しいイベントに取り組んでいる多くの同窓生は多士済々であることを改めて感じています。高校で学んだ時間は三年間であるのに、このように懐かしくそしてこれからは一緒に楽しもうと思えるのは、その青春が詰まっているからでしょうか。心に残る同窓会を持つことが出来ました。

会の準備はいつもながら多くの幹事の一致協力のもと、滞りなく終えることができています。幹事の献身にはいつもながら感謝するしかありません。  
(記実行委員会)

## 50周年記念同窓会 (膳所高8回・昭和35年卒業)

琵琶湖に吹く風にも春の訪れを感じさせる平成22年3月7日(日)に大津プリンスホテルにおいて昭和35年第8回卒業生172名が集い、恩師の岡田節夫先生、前川哲郎先生と現在の校長の河原恵彰先生をお迎えして卒業50周年記念同窓会を開催いたしました。



先ず国歌と校歌を斉唱し、続いて不帰の人となられた恩師(3年担当6名)と同級生(58名)のご冥福を祈って黙祷を捧げました。そして幹事代表の挨拶に続き、来賓の方々からそれぞれご祝辞をいただき、その後膳所高校の先輩・後輩で現在社会の第一線で活躍されている3人の方々(昭和22年卒・パーソナリテイ中村鋭一氏・昭和48年卒・京都大学大学院教授桑原知子氏・昭和55年卒・NHKキャスター野村正育氏)からいただいたお祝いのビデオメッセージを鑑賞し、心のこもったメッセージに出席者一同感動したところでもあります。続いて遠方より出席の同級生3人(米田サンフランシスコ・北海道・九州大分県)の乾杯の発声で開宴しました。50年ぶりの出合いを喜び近況を語り合う時間はアツという間に過ぎていく中で、今回の記念同窓会のために同級生でプロの陶芸家として活躍中の2人(石山駿君・中野和彦君)から提供いただいた「絵皿と土鈴」のプレ

ゼント抽選会などもあり楽しいひとときを過ごしました。

最後に懐かしい逍遙歌や琵琶湖周航の歌、そして「今日の日はさようなら」を大合唱し、皆で再会を約しつつお開きとなりました。

名残りつきない会のこと二次会は別室に移動し、ここでも思う存分語り、またカラオケありで大いに盛り上がりしました。

折しもこの日は「第65回びわ湖毎日マラソン」と重なりましたが、私達の同窓会は外の熱気を上まわるエネルギーとパワーに満ち溢れた思い出多い感動の一日となりました。

最後になりましたが、今回同窓会本部よりお祝い金をいただき、また事務局にもいろいろお世話になり本当に有難うございました。心から御礼を申し上げます。報告と致します。  
(幹事代表 藤崎聰)

## 45周年記念同窓会 (膳所12回 昭和39年卒業)

平成21年9月27日(日)、琵琶湖ホテルにて、卒業50周年記念同窓会が開催されました。卒業生百三十二名と、恩師の小笠原保信先生、岡田節夫先生、村田辰夫先生、山本利達先生、舟橋明先生、そして、現校長河原恵彰先生のご臨席の下、我等が先輩橋本昭夫氏のピアノ演奏ならびに大平順一君の落ち着いた司会進行により華々しく幕開けしました。

校長先生の祝辞に、膳所高校への進学が全県一区になったこと、文部科学省より科学技研、理科、数学教育を重点的に行うスーパーサイエンススクールの指定を受けたこと、さらに世界に羽ばたく人材育成をいたしますとの宣言を聞き、母校のますますの発展を確信し、一同胸を熱くしました。

また、恩師岡田節夫先生の地震についての名講演には、全員が熱心に聞き入り、当時の授業風景が懐かしく思い出されました。

今回は、クラス別ではなく、くじ引きによりテーブルに着くという設定であり、初めて顔を合わせる同窓生もいました。食を食べて、飲んで、大いに語り合いそして笑い、同窓生の絆をより深めることが出来ました。そして、高校生当時のままのアツという間の楽しいひと時を過ごせました。

後になりましたが、物故会員30名の方々に、謹



んで黙祷をささげると共に、幸いにも健康で参加できた事を感謝して止みません。

宴たけなわの中、1名の方が物故者で無いとか有るとか...の混乱のエピソード。後日、いろいろ手を尽くして、生存しておられるとの事で一件落着いたようですが、このような事にならないよう、住所等に変更があれば連絡を取り合せて、次回も沢山の参加者が再会出来る事を祈念致します。実行委員の皆様、有難うございました。  
(梅村俊二)

## 還暦記念一泊修学旅行 (膳所高15回 昭和42年卒業)

昭和42年3月卒の同窓生は、有志による実行委員会をつくって、同窓会を20周年、25周年、30周年、35周年、40周年と実施し、多くの皆さんにご参加をいただき、5年毎に元気を交換してきました。



平成21年は、4月1日で同級生のすべての方が等しく還暦を迎えることから、あらためて、これからの人生の友として、再交流の機会としてもらうために、2年前(40周年)に皆さんで決めた「還暦記念一泊修学旅行」として実施しました。

現役時代の修学旅行が、「九州組」「東北組」にわかれて開催されたことから、全体で宿泊を伴った旅行となりました。

そこで滋賀県から一番近い京都、東山三条大橋の修学旅行専門の旅館「日昇館尚心亭」で開催しました。全国から100名ほどが集まり、実行委員会を代表して岩崎くんの挨拶、大道くんの乾杯で始まりました。まだまだ還暦を迎えても仕事を続けている同窓生も多くあり、現在の近況、旅行や孫の楽しい話、親の介護の話等いつもと少し違った話で始まり、親あんなに若かった同窓生が還暦を迎えて、新しい時間、セカンドライフの充実のためにいい機会になったと考えています。

そのあと、三つの部屋に分かれて、二次会を開催し夜が更けるまで大いに盛り上がり楽しい交流となりました。

二日目はバスを借り上げ、懇親会、二次会に続き第3部として、京都市内めぐり半日バス旅行を企画しました。前日の再会による感動の余韻を残しつつ総勢30名ほどが、午前9時半宿泊先のホテルを多数の同窓生

に見送られながら初秋の都路へ大型バスで出発。

ベテランガイドさんの案内や懐メロが流れる車内は出発早々40数年前の学生時代のバス旅行にタイムスリップ。川端通、丸太町通や御所の木立等、昔と変わらない古都の風景を満喫していると最初の訪問先金閣寺に到着。英語、韓国語、中国語に訳されたパンフレットに時代の流れを感じながら金箔が眩しい境内を散策。次の嵐山では全員で渡月橋をバックに記念写真を撮影。お昼の湯豆腐に舌鼓を打ちながら語らいの流

れは続く。その後龍安寺、仁和寺を散策して予定通り3時半に京都駅八条口に到着。別れ難き中にも次の同窓会での再会を約束しつつ解散しました。  
前日から凡そ24時間、旧交を温めながら歓談してもなお尽きぬ友との語らい。その中で改めて「人生の歩み方」「幸せの形」は色々あるものだとしみじみ感じ「還暦記念一泊修学旅行」でした。(沢井進一)

## 35周年記念同窓会

(膳所高22回 昭和49年卒業)

昭和49年春卒業の第22回卒業生は、平成21年8月15日に琵琶湖ホテルにおいて、卒業35周年の同窓会を開きました。当日は恩師の先生方9名と河原校長先生にご出席いただき、総勢119名の参加者となりました。  
今回は先年完成しました新校舎の見学会を本会前に行いました。約40名の同窓生が、現在母校で教鞭をとる、辻(山本)雅代さんと野々村尚毅君に校舎を案内していただきました。また、現在各方面で活躍の同窓生の様子を紹介しようと、希望者に自己PRしてもらう機会も設けました。勤務先の営業資料から、趣味のサークル、ボランティア活動などで、幅広い範囲の紹介冊子が多数集まり、ロビーの展示場所から、同窓会出席者はめいめい希望の資料を持ち帰りました。



会食中は元写真班の井口芳博君が、大切に保存していた当時の千枚以上の写真と、他の同窓生から集めた写真から作成してくれた、1時間半にも及ぶスライドショーを鑑賞しました。カーペンターズを初めとした当時の懐かしい音楽に合わせて映し出される若き日の自分の姿に、全員一気に35年前に引き戻されました。

最後は応援団団長の神山等君が、伝統の三三七拍子を披露。そして河原校長先生とがっちり熱い握手を交わし、我々の膳所高魂をお伝えしました。  
二次会では恩師の先生を交えてのカラオケ大会。歌も話も尽きることがありませんでしたが、ホテルの予定時間をはるかにオーバーしてしまい、5年後の再会を約束して分かれたのでした。  
次回40周年にも新たな企画を打ち出し、さらに大勢の同窓生の参加を期待したいと思います。(竹中和紀)

## 30周年記念同窓会

(膳所高27回 昭和54年卒業)

高校を卒業して30年も経つと、同級生は皆おっさんとおばはんである。自分だけはそうではないと心に堅く信じていても、再会した友人達の容姿の変貌というまぎれもない現実には心にくるのしかかる。例外的に若々しい男子や美しい女子を見つけると非常に嬉しくも羨ましくもなるが、彼らはあくまで例外で、自分はそのではない普通の中年であることを余計に意識せずにはおれない。同窓会とは、そんな葛藤の場でありあきらめの場である。でも、楽しい。心から楽しく、童心に返ってアホになれる時間だ。

というわけで、平成21年5月4日、琵琶湖ホテル瑠璃の間にて私たちの同窓会は5年ぶりに開催された。集まったのは156名の同級生と恩師6名であった。午後1時からの同窓会に先立ち、午前中には膳所高新校舎の見学会があった。そこでは、同級生の膳所高教諭門坂・神田・田井君のはからいでサブライズ授業があり、岡本(月原)一郎先生の数学、山本博昭先生の日本史の授業が開催された。昔あれほど理解できなかった月原さんの三角関数がよくわかったのは、お互いの年の功なのか。

同窓会では、両先生に加えて西池季節、羽野正孝・井上太刀夫・岩越正文の各先生が来賓としてご挨拶ください、往時の高校生生活を懐かしく思い出すごうだ。隣室に設定された二次会にはほとんど全員で流れ込む。スライド上映などの企画があったが、話すのに夢中で何があったか思い出せない。ここで昔の学園祭資料や教科書やテスト問題などを収録した特別版「生徒便覧」(田井君作成)がお土産として配られたが、これは貴重な青春の思い出といえる。共通一次一



期生で新人類といわれた我々世代の原点を見る思いがした。フラミンゴに場所を移した三次会は深夜におよび、おっさん達の再会の夜はふけた。5年後が、さらに怖くもあり楽しみでもある。みんな、元気にまた会おう。(怪蝶)

## 25周年記念同窓会

(膳所高32回・昭和59年卒業)

昭和59年に卒業した膳所高等学校の同級生は、平成22年1月2日にポストンプラザホテル(草津市)に集い、卒業25周年を記念する同窓会を開催しました。当日は130人を超える同級生が集まり、幹事一同この出席者数と出席率の良さ(当日欠席3名のみ)に感激しました。そして、何より同窓生一同が嬉しく思ったのが、ご臨席をお願いした恩師の先生が9人も(卒業時の担任10人中9人もが)元氣なお顔をお見せ頂いたことです。



四半世紀とは言いますが、この節目に同窓生が集まれた意義は大きかったと思います。年齢は四十年代半ば、働く者は組織や社会の中で中核的な責任を負い、日々プレッシャーやストレスと戦っています。家庭を守る者は地域や教育で大きな役割を担い、喜怒哀楽、試行錯誤の毎日です。そうした中、多感な高校時代をともに過ごした旧友と久々に語り合ったときは、気持ち若返らせてくれるとともに、明日への大きな糧となりました。「同窓会で魔法にかかった」と思っただけの方も多かったのではないかと思います。

一方で、なかなか一致しない顔と名前、歳を重ねた結果の風貌・容貌の変化。25年間の時の長さを感じざるを得ませんでした。でも、そこは同級生のいいところ。そうしたことをすべて受け止めて再会を喜び合い、旧交を温めることができました。

同窓会は、代表幹事の中山雅文君や恩師の先生方のスピーチの他、TBSでのアナウンサー経験を持つ原山理一郎君が名(迷)司会ぶりを発揮した高校時代の写真のスライド・トークコーナーや先生方への花束贈呈などで大いに盛り上がりました。  
多くの旧友から「こういう機会を作ってくれてありがとう」という言葉をもらい、今回、幹事をやって本当によかったと思えました。そして、今後も節目節目

## 5周年同窓会

(膳所高53回 平成17年卒業)

2010年1月2日に卒業5周年記念同窓会を大津プリンスホテルコンベンションホール淡海にて開催しました。お正月という多忙な時期にもかかわらず200名を超える出席者が集まり、6名の恩師の方々にもご臨席頂きました。  
成人式直後におこなった前回の同窓会からすでに3年という年月が流れていますが、当時と変わらぬ様子の同級生や恩師との再会に皆感激し、会が始まる前からホテルのロビーや廊下で歓談している様子が見られました。  
会は浮田倫太郎さんの見事な司会で進行され(写真右上)、代表理事の高橋春弥さん、当時学年主任を務めておられた増本先生の挨拶でスタートしました。会場には掲示板が設置され、そこに欠席者を含めた近況を張り出した企画展示が行われ(写真左上)、話の種としていただきました。また、歓談の最中には、前回の同窓会の写真がスライドショーとして流されました。



昔話やお互いの近況を話したり、写真を撮ったりしているうちにあっという間に2時間が経ってしまいました。最後に全員の写真撮影して、一次会はお開きとなりました。  
今回は5年後の2015年に卒業10周年記念同窓会を開く予定です。ある大学の先生からの受け売りですが、同窓会はけっして利だけと結びついているような関係ではない、昔に帰って気楽に楽しめる集まりです。これからますます忙しくなっていくことが予想されますが、次回も多くの参加者が増えてくださることを切に願います。

最後になりましたが、今回の同窓会の準備、運営に携わってくださった同窓会理事・理事代理の皆さん、先生方の連絡を集めるのに協力してくださった小倉先生に心からお礼申し上げます。(武田祐史)

# 膳所高56回新成人同窓会 (平成20年卒業)

2010年  
1月11日成人の日  
に大津プリンスホテルにて平成19年度膳所高校卒業生同窓会を開催しました。恩師の先生方14名のご臨席を賜り、卒業生約350名が一室に会する盛大な同窓会を催すことができました。



河原校長先生と大崎前校長先生にお祝いの言葉をいただき、生徒会長であった野口雅貴君の乾杯の音頭で開宴しました。思い返せば、私たちは膳所高校の歴史の中でも稀有な体験をしました。まず校舎の建て替えがありました。私たちは旧校舎を知っている最後の学年であります。膳所の歴史が息づいている建物で過ごした日々が、今も脳裏に焼き付いています。そして、私たちの前に立ちはだかっただけの未履修問題でした。何度も学年集会を重ね、そして土曜日の授業をこなし、七時間授業の日々を過ごしながら無事卒業し、進路実現を遂げたのです。ここに並々ならぬ膳所高生の力というのを見た気がします。

卒業して早や二年が経ち、この日大人の仲間入りを果たしたと思うと身が引き締まるともに、大人としての自覚と責任を持たねばならないと気持ちを新たにしました。そして、20年間私たちがそばで見守ってくれた全ての人たちに對する感謝の気持ちが自然と込み上げてきました。

ともに膳所高校で過ごした仲間たちが全国に羽ばたき、自分たちの夢に向かって着実に歩を進めている姿がとも頼もしく見えました。この仲間たちと日本を背負っていく日がやって来ることを私はとても楽しみにしています。そして今後とも交流を続け、生涯の仲間として手と手を取り合っていきたいと思えます。

私たちは成人を迎え、やがて社会人となり社会の荒波へと漕ぎ出していくことになりました。困難もたくさんあることでしょう。しかし、それを乗り越える力というものを膳所高校で身に付けたはずで、何よりも437人の頼もしい仲間たちがいるということをお忘れずに、今後の人生を生きていきたいと思います。

(倉増航平)

## 野球部OB会入会式

先日、膳所高校野球部OB会の入会式が初めて行われました。今までは、入会式が行われておらず、あまり、「OB会に入った」という実感もありません。OB会に入会していったという話を聞き、OB会入会を実感できるという点でも素晴らしいものであったと思います。また、OBの方々からこれから役立つ話を多く聞くこともできました。これからもぜひ続けていってほしいです。

僕は、入部してから一年ほどは、OB会の存在を知らず、またどのようなことをしていたか知らなかった。かなどとも知りませんでした。しかし、甲子園に出場したことがある方も含め、多くのOBの方々が、練習を手伝ってくださったり、見に来られたり、また、話を聞いていただいたりする内に、OBの方々がどれほど膳所高校野球部のことを愛し、応援しておられるのかが分かるようになりました。また、OBの方々はとても感謝していますし、結果を出せず申し訳ない気持ちもあります。

今度は、自分たちもOB会の一員となり、膳所高校野球部の強化、応援していく立場となります。練習の手伝い、試合の手伝いなど、膳所高校野球部の為に行えることは、いくらでもあると思います。さまざまな形で膳所高校野球部への恩返しをしていきたいです。それが、「甲子園出場」に少しでも役に立つてくれればと心から思います。

膳所高校野球部で三年間野球をやり抜いたという誇りを胸に、これからの人生を生きて行きたいです。また、膳所高校野球部で学んだことは、様々なことに通じる場所があるので、後輩だけでなく、広い社会でも色々な人に伝えていけたらいいなと思います。

膳所高校を卒業し、もう僕は、選手として膳所高校野球部に貢献することは不可能です。だからこそ、僕たちに多くのことを教えてくれ、僕達を大きく成長させてくれた膳所高校野球部に、OB会



の一員として、少しでも貢献したいです。

現役の選手達個々の成長、チームの成長、OB会の発展。これらのバランスのよい進展が、「甲子園出場」につながっていくのです。



## 周年記念同窓会 予告

### 陸友会再建総会 (陸上競技班OB・OG)

日時 平成22年5月22日(土) 午後5時  
会場 かつが(JR大津駅前) 滋賀ビル9階  
TEL 077-5225-8551  
連絡先 陸友会再建準備委員長 佐藤 尚武  
準備委員 荒川 昭治  
メール nakano@ctc.co.jp  
TEL 090-3053-8077  
◎詳細は後日ご案内致します。

### 膳中四六回 (昭和23年旧膳中卒)

日時 平成22年11月10日(水) 午前11時~午後3時  
会場 集合 膳所高校 会食 大津プリンスホテル  
会費 一〇,〇〇〇円  
連絡先 小島 晴雄 西川 右門  
◎詳細は9月中旬にご案内致します。

### 60周年記念同窓会 (大津高(旧大津) 昭和25年卒)

日時 平成22年6月27日(日) 正午開会  
会場 琵琶湖ホテル 琵琶湖の間  
連絡先 杉江 周作 TEL 077-585-1381

### 55周年記念同窓会 (大津東高第3回・昭和30年卒)

日時 平成22年5月19日(水)  
会場 琵琶湖ホテル 瑠璃の間  
会費 一〇,〇〇〇円  
幹事 上木 徹(代表)  
連絡先 早川 敏夫 TEL 06-6852-2976  
携帯 090-3722-7790

### 卒業45周年記念同窓会 (膳所高13回昭和40年卒)

日時 平成22年9月4日(土)  
受付 午後2時半 開会 午後3時半  
会場 琵琶湖ホテル 瑠璃の間 大津市浜町2-40  
TEL 077-524-7111(代)  
永味 幸雄 大津市長等3・5・11  
自宅 077-525-2938  
携帯 090-3998-9451  
職場 075-365-2416  
郵便事業会社京都支店普通郵便課

### 25周年同窓会 (膳所高33回昭和60年卒)

日時 平成23年1月2日(日)  
会場 琵琶湖ホテル  
連絡先 澤 博史 TEL 090-7888-2573  
若山 法子 TEL 077-579-2083  
メール sw1024sayoko@docomo.ne.jp  
同窓会の情報をYahoo!グループに掲示して下さる登録して頂けたら。 http://groups.yahoo.co.jp/group/zeze60

### 20周年記念同窓会 (膳所高38回平成2年卒)

日時 平成23年1月2日(日) 12時 開会  
会場 アル・マール大津 大津市御殿浜15-8  
TEL 077-533-1101(代)  
会費 一〇,〇〇〇円(記念品代込み)(平成2年卒)  
連絡先 米倉(やねく)崇(たかし) 平成2年卒  
TEL 090-2194-7222

### 5周年記念同窓会 (膳所高54回平成18年卒)

日時 平成23年1月2日(日) 開会 午後6時  
会場 琵琶湖ホテル  
代表幹事 山下 舞琴(やましたまこと) (3年11組卒)  
連絡先 pijet@akoto116@ahone.jp  
TEL 080-6177-5248  
◎詳細は決まり次第お知らせ致します。

## 会費納入ありがとうございました 同窓会会費納入状況

会員の皆様から納入していただきました平成21年度の同窓会会費は、平成22年3月31日現在、  
**総額 7,924,000円**です。  
前払いしていただいている方については、当年度分を振替充当して、上記金額に集計させていただいております。  
会員の皆様のご理解に感謝しますと共にますますのご協力をお願いいたします。  
今回 平成22年度会費納入の振替用紙を同封いたしておりますのでご入金ほど、よろしくお願ひ申し上げます。(財務部)

## 会員名簿購入のお願い

平成21年版の会員名簿を発刊しました。この名簿は会員のみの限定販売です。  
価格 **4,000円**(送料税込)  
膳所高校同窓会で承ります。  
受付時間 (月~金) 13時~17時  
TEL 077-524-4295

## 滋賀県立膳所高等学校同窓会

### 年会費納入のお願い

平成22年度会費を同封の振替用紙にてご納入いただきますようお願いいたします。  
ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

会費は年額2,000円となっておりますが、5年(10,000円)、まとめてご納入いただければ幸いです。

〔納入機関〕 郵便局 01010-3-30378  
(振替用紙は共通です。) 銀行 滋賀銀行 本店 普 913381  
関西アバン銀行 びわこ営業部 普 335940

いずれも名義は、滋賀県立膳所高等学校同窓会 会長 浅田 幸作 です。  
※新卒の同窓生は、卒業後4年間は卒業時に納入する入金金3,000円のみで、卒業後5年目から会費納入をお願いいたします。  
※ご住所等に変更がある場合は振替用紙にその旨をご記入下さい。(財務部)

平成14年度から、年会費2,000円、5年会費10,000円に改定されています。  
一人でも多くの会員様に会費を納入していただき、お願い申し上げます。同窓生の皆様の温かいご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

## 第58回卒業式



平成22年3月1日、本校体育館に於いて、第58回膳所高等学校卒業証書授与式が行われ、普通科400名、理数科37名、計437名が自信と誇りを持って新たな旅立ちをした。

式は、浅田同窓会長、今市同常任理事、小西同総務部会長、元校長武原先生、西岡先生、大崎先生、沖父母教師の会会長、後藤父母教師の会副会長、岩崎父母教師の会副会長を来賓に迎え、在校生（2年生全員、1年生各クラス代表2名）、教職員出席のもとに盛大に開催された。

3年生は各クラスの担任から全員が呼名され、各クラスの代表に河原恵校長から卒業証書が授与された。河原校長は、式辞の中で「言語力、考える習慣を身につけ、人との出会いを大切にしてください」と語り、社会に貢献して欲しい。旨の言葉をほなむけとされた。

「卒業生の言葉」では、代表の井上絢姿さん、西村恵美さん、堀内翔平君、七村拓野君の4人が順次、遠足・班活動・修学旅行・湖風祭・受験勉強等の思い出を述べ、最後に、お世話になった方々への感謝と、未来に対する決意の言葉を力強く語った。

その後、卒業生は全員で「旅立ちの日に」を合唱し、吹奏楽班による「YELL」の演奏の中、出席者の拍手を浴びながら会場をあとにした。



また、これに先立ち、2月28日に同窓会入会式と卒業記念品目録贈呈式が行われた。同窓会入会式では浅田同窓会長がお祝いの言葉を贈られ、卒業生を代表して、3年9組の服部光記君が「入会のご挨拶」を述べたあと、小西総務部会長が同窓会の活動等の説明をなされた。卒業記念品目録贈呈式では、代表の3年3組東山昂平君が、図書館用書架、体育館用下足箱、テント一式、彼岸桜の目録を贈呈した。

## 班活動報告

### 平成21年度班活動結果

- 報道部**
  - 放送班
    - 全国総合文化祭アナウンスの部 出場 奥山詩雨
    - 第56回NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス部門準決勝出場 西村恵美
- 体育部**
  - 陸上競技班
    - 全国高校総体 男子800m 7位 山崎貴史
    - 国民体育大会 陸上競技男子 800m出場 山崎貴史
  - ボート班
    - 全国高校総体 ボート競技大会
      - 男子 舵手付クオドルプル 準々決勝 5位
      - 女子 ダブルスカル 準決勝 4位
    - 全国選抜大会 女子 出場
    - 国民体育大会ときめき新潟国体 セーリング競技 出場 藤支 優衣子
    - 近畿大会 出場
- 文化部**
  - 英語班
    - 全国高校生英語コンテスト大会 5位
    - 全国高等学校総合文化祭 出場
    - 小倉百人一首かるた部門 団体戦 ベスト16
    - 読手コンクールの部 8位 谷口恵香
  - かるた班
    - 全国高等学校総合文化祭 出場
  - 山岳班
    - 全国高校総体 出場
  - 体操班
    - 全国高校総体 新体操女子団体 出場
  - 空手道班
    - 近畿大会 男子団体 形 5位入賞
  - ソフトテニス班
    - 近畿大会 出場
  - 卓球班
    - 近畿大会 出場
  - 水泳班
    - 近畿大会 出場
  - サッカー班
    - 近畿大会 出場
- 書道班**
  - 全国高等学校総合文化祭 出場
  - 県代表 古川 直
  - 国際高校生選抜書展
    - 団体の部 近畿地区準優勝
    - 個人の部 優秀賞 深田 千里
    - 秀作賞 藤本 夢未
    - 下村 真子
- 生物班**
  - 全国高等学校総合文化祭 出場
- 化学班**
  - 全国学生科学賞 入選3等
  - 音楽班合唱部
    - 全国高等学校総合文化祭 出場
  - 弁論班
    - 第14回全国中学・高校 選手権 ベスト8
    - ダイアット選手権 ベスト8

## サクサク！主要大学合格者

国立大学		公立大学		私立大学		その他	
大阪大	45名	福井大	3名	京都女子大	24名	上智大	1名
京都大	42名	奈良女子大	2名	関西学院大	17名	関西医大	1名
神戸大	28名	一橋大	2名	早稲田大	15名	他私立大	45名
滋賀大	21名	大阪教育大	1名	近畿大	13名	日本大	2名
京都工芸繊維大	17名	千葉大	1名	同志社女子大	10名	明治大	2名
滋賀医大	13名	他の国立大	20名	東京理大	7名	大阪医大	3名
名古屋大	9名	大阪市立大	14名	大阪工大	5名	慶応大	4名
岡山大	7名	大阪府立大	14名	京都外大	3名	大阪医大	3名
横浜国立大	6名	京都府立大	8名	大阪医大	3名	明治大	2名
広島大	6名	京都府立医大	4名	日本大	2名	上智大	1名
北海道大	5名	滋賀県立大	2名	関西医大	1名	他私立大	45名
金沢大	5名	他の公立大	11名	国公立短大	1名	私立短大	1名
信州大	5名	立命館大	365名	専修学校等	1名	防衛医科大学校	2名
名古屋工大	5名	同志社大	164名				
筑波大	5名	関西大	67名				
東京大	4名	龍谷大	34名				
京都教育大	3名	京都薬大	34名				
九州大	3名	京都産業大	24名				
静岡大	3名						
東北大	3名						

## 寄稿のお願い

三頁の「校歌の変遷について」に記載しましたとおり、それぞれが学ばれた時代の校歌にまつわるエピソード、思い出等を400字〜600字程度にまとめて同窓会事務局まで御寄稿下さい。

締め切り 平成23年1月末日

## 編集後記

春が到来し、校門横の桜が咲き、今年も「JUNGIIDO」をお届けする時期となりました。

広報部では創刊以来の部会員の退会や種々の事情による休会などで、減少が続きます。本27号が発行ができるかと心配しましたが、予定どおり皆様にお届けすることができ一同安堵しています。

部会員の高齢化も進み、来号もこのような状況が続くと今後「JUNGIIDO」が安定的に継続的に発行できるか懸念しております。

同窓会員のなかで一緒に広報部会の仕事をしていた方のご参加をお待ちしています。

広報部会では今、28号の発行に向けて新たなスタートを切りました。

(S・I)



- 上野滋子(東2)・松村暢江(膳10)・山田 勲(膳11)
- 東郷重明(膳15)・藤原陽子(膳16)・岡澤則子(膳26)
- 堀井美香(膳33)・井上正雄(総務)・池田 修(総務)
- 直村かほる(総務)